

## 第十二回 御府内八十八ヶ所霊場巡り 第2日目

### 成増公園—鷺ノ宮駅

日時 平成27年2月25日(水) 午前9時 晴れ  
集合場所 東武東上線成増駅下車徒歩5分 成増公園  
主催 東京都ウォーキング協会 歩数29322歩  
距離 20キロ 参加費500円 参加人員75名  
スタート 9時15分 ゴール14時  
状況 成増駅で下車、駅の下にある公園へ向かう。南口と北口では標高差がかなり大きい。長い階段を降りて公園へ向かった。公園の周囲の整備工事が始まり狭い中で出発式を行った。成増駅は和光市、板橋区、練馬区に囲まれ埼玉県と東京都の境に位置する駅である。天気も良く温度もウォーキングにはベストな日和であった。住宅街の中をくねくね歩き19番札所青蓮寺に着いた。道から石段を上がり本堂に向かう。19番札所は最初は愛宕下の円福寺であった。明治初期の神仏分離令により廃寺となり浅草の松葉町の清水院が19番札所と変わった。ここも関東大震災で被害はひどく廃寺となり代わりに青蓮寺が交代した。ここで般若心経を上げて反対側の坂を下る。和光市に入った、ここでは清水かつら{1898-1951}が有名である。男性童謡詩人で戦前に沢山の児童唱歌を作詞した人である。母方の実家が和光市のためここで名作を多々制作した。主な作品としては【靴が鳴る】、【叱られて】、【雀の学校】、【あした】などがあり戦後では【みどりのそよ風】を作詞した。日本の歌百選に【靴が鳴る】が選ばれている。



19番札所青蓮寺



光ヶ丘の花と緑の相談所

再び成増駅へ戻ったがだいぶ遠回りした感が残る。東武東上線の踏切を越える。254号線(川越街道)を越えて光ヶ丘への道を進む。僅かな時間に板橋区、和光市を通り今練馬区に入った。行く先は光ヶ丘公園である。光ヶ丘公園は東京都立の都市公園(総合公園)であり隣接する光ヶ丘団地を有し練馬区最大の公園となった。

戦前は特攻隊の出撃基地となった成増飛行場と神田区武蔵健児学園(花岡学院)があったが戦後は米軍のグランドハイッツとなった。和光市に住

んだことのある私はこの飛行場からは飛行機が飛ばないうちに終戦となったと地元の人に聞いた。昭和48年(1973)に米軍がから返還された時にはこの地に7万人が居住する団地を作る予定であった。美濃部都知事のため計画は半分に減らされ、残り半分は大きな公園に変わった。面積60万7823平方m、樹木数16300本、60200株の大きな公園が誕生した。この一角に熱帯植物園がある。区民のための花と緑の相談所もある。今熱帯植物園は耐震構造のために撤去され新しい工事がこれから始まる。花と緑の相談所だけ残っている。ここでトイレ休憩となった。熱帯植物園はごみ焼却場の熱を利用して熱帯植物の育成を行い、熱帯魚熱帯草花など培養を行ってきた。ごみ焼却の熱が一般家庭の熱として利用されている、その余暇に熱帯植物園、熱帯性生物の観賞、培養など行われていた。10時45分光ヶ丘公園を出る。大きな高層住宅街の中を歩く。建物と建物の間は緑豊かな木々があり、子供のための公園も設備されている。この中を15分ほど歩いて通り抜けた。11時10分谷原の交差点に着く。環状八号線と目白通りが交差する地点である。歩道橋を歩く。四角の歩道橋は4方向への道であり歩行する人の便宜を図る。しかし下の道路には歩道はない。いやでも歩道橋を渡る以外はない。エル字型に歩道橋を渡り環状八号線を左に西武池袋線の練馬鷹野台駅へ向かった。



17番札所長命寺



長命寺大師堂



長命寺本堂

順天堂大学病院の手前に17番札所長命寺がある。長命寺の創建は慶長18年(1613)増島慶算が開基した寺である。慶算は小田原北条氏の一族増島重明という。北条氏が没落して慶算は高野山で修行、弘法大師の木像に感得してお寺を作ったのが始まりで、その後慶算の志を継いで重明の甥の増島重俊が金堂等の堂塔を整備して、寛永17年長谷寺小池坊秀導が谷原山(こくげんさん)妙楽院長命寺と名付けた。江戸時代には9石5斗の朱印状を賜る。東の高野山と称して江戸市民に親しまれ高野山と同じように奥の院を作り弘法大師の御影堂も作りここにぬかずけば霊源が得られるとして人気を集めた寺院である。境内も広い。東の高野山を自負するほどの境内の充実ぶりであった。ここを出て石神井川に沿って歩く。11時50分には70番札所禅定院に着いた。照光山無量寺禅定院が正式の名称であり真言宗智山派の寺院である。600年前

に願行上人が開山したといわれる。文政年間の火災で全て焼失した。



70番禅定院キリシタン灯篭



弘法大師像



して不明不詳であ

境内にはキリシタン灯篭がある。寛文13年(1673)と刻まれている。織部灯篭には竿にマリア像に似た石彫が見られる。これと同じものが新宿太宗寺にもある。キリシタン灯篭といわれている。境内にはこの他弘法大師像が鎮座している。最近は新しい道祖神が寄贈されてあった。この地が豊島小学校発祥の地として歴史が残る土地でもある。

再び石神井川に出て少し沿って歩いて左に入ると16番札所三寶院に着いた。時間は12時を過ぎている。三寶院も大きな寺院である。ここで



16番札所三寶院



三寶院本堂



三寶院案内表示

トイレを借りたが立派なトイレが用意されていた。三寶院は応永元年(1394)に鎌倉の大徳寺の幸尊法印によって開かれた寺院である。当時は石神井城を築き治めていた豊島氏も帰依され豊島氏滅亡後、ご北条氏や徳川家に保護を受け発展した。徳川家光の鷹狩りの際に休憩所として使われ朱印地10石を賜る。また無本寺として格式を持った寺となった。山門は徳川家ゆかりの門として御成門と呼ばれた。現在の門は1827年に建立されたものである。勝海舟の長屋門もあり、境内も広くゆったりとした寺院らしい寺院であった。ここを出てさくらの辻公園を見ながら一路井草森公園を目指す。公園の手前の蕎麦屋で食事をした。ランチそば天麩羅付きで三段重ねそばで味が良くて女性群に喜ばれる。

12時45分には公園を出て最後の福蔵院へ向かった。

井荻駅に出て環状八号線を歩く。大半の車は地下道を走るので側道は車が少ない。ここは有名な井荻踏切のあった場所である。環状8号線の交通ネックの場所である。西武鉄道がすべて渋滞の原因で車利用者泣かせの井荻踏切であった。今は環状八号道は地下道に入り、依然として西武鉄道は高架線にしない場所でもある。結局国がすべて負担して地下道を

作り西武鉄道はこれに便乗したに過ぎない。多くの車利用者、鉄道利用者を苦しめた西武鉄道商法はあこぎなもので我々の税金が大量に投入された。環状八号線を歩き、途中から左に入り妙正寺公園に入る。公園の中を素通りして妙正寺川に沿って左岸通り、右岸通りを歩く。午後2時半ようやく福蔵院に着く。歩く速度が遅く一番最後を歩いた。ようやく20キロ歩けて14番札所福蔵院に着いた。



14番札所福蔵院本堂



福蔵院の白梅咲く

一番最後に歩いていたので正式ルートでなく裏口から入山の形となった。入るとすぐに白梅が咲き誇り春を告げていた、この寺は真言宗豊山派であり白鷺山正幡寺福蔵院という。僧頼珍が大永元年（1521）に創建したと伝わる。江戸時代は鷲宮八幡神社の別当寺であった。宝暦12年の火災で焼失した。ここの鐘楼は9尺4寸、鐘廻り2尺7寸。高さ5尺の寛延2年（1749）鑄造したと刻されている。

これで20キロウォーキングは終わった。しかし足の速度は劣る。きつい長い距離のコースであった。何とか落伍せずに最後まで歩けたが余りにひどいと仲間に加われなくなる。心身鍛えてまだまだ歩ける身体を証明したい。